

しず老施協

巻頭言



養護老人ホームとともに歩んで

静岡県老人福祉施設協議会

養護委員長 柴田直哉

(養護老人ホーム藤枝市立円月荘 施設長)

静岡県老施協養護委員長の柴田と申します。日頃の会員施設の皆様の御協力に感謝申し上げます。

私が、養護老人ホーム藤枝市立円月荘に生活指導員として配属されたのは、平成16年4月でした。世間では介護保険にスポットが当たっていた中、介護とは違うその世界に戸惑ったものでした。入所者の皆さんと草取り、畑仕事、河川清掃、夏祭りのテントや櫓の設営をする等、一緒に何かをしていた記憶が沢山あります。

養護老人ホーム（以下養護）にももちろん介護の場面もありますが、基本は伴走支援です。その支援は、日常生活の場面から、医療、余暇活動、金銭管理など様々です。養護の性格上低所得な上、多重債務を抱えた方もいて、市民無料弁護士相談や、法テラスなどに同行することもありました。

天涯孤独な方も多く、救急時や死後の手続きについて行政と協働することも多々あります。精神障害、知的障害、身体障害を持った方も入所されていて、施設内ですが、社会的包摂を先取りしていたように思います。このように、養護は様々な課題を抱えた方が入所する重要なセーフティネットです。

しかしながら、入所率は年々低下し続け、静岡

県内の入所率は昨年度会員施設調査で74.1%でした。これに物価高騰、人件費高騰も相まって、赤字経営の施設も約半数あり、経営的にも危機的状況にあります。全国的にも同様の推移を辿っています。この原因を、行政は措置対象者の減少と言いますが本当にそうなのでしょうか？

確かに近年では、無年金の入所者はほとんどいなくなりましたが、静岡県内の高齢化率は30%を超えています。実際、県内でも常に満床を保っている施設もあり、この地域だけ特別対象者が多いというわけでもないと思います。対象者の掘り起こし、認定基準の考え方など、こういった施設、地域から学ぶことが沢山あるように思います。

また、養護には措置費基準単価改定問題があり、平成18年の措置費の一般財源化以降、地方交付税の増加に見合った、基準単価の増額改定が無く、収入が伸び悩む原因の一つとなっています。

一時は養護不要論が示された時代もありましたが、全国老施協も養護の改革に力を入れてくれている今、入所率の増加、措置費の改定という二大テーマについて、会員施設の皆様とともに調査、研究、行政への働きかけをして、少しでも改善していけたらと思います。

皆様どうぞご協力お願い致します。

福祉の未来を見据えて

～持続可能な福祉現場の実現に向けたドクターメイトの活用～



介護老人福祉施設 梅香の里
施設長 大杉 和也

福祉現場に限らず日本企業では今、労働人口の減少による慢性的な人材不足が深刻な課題となっています。特に介護業界では、介護職のみならず専門職である看護師の確保は困難を極め、離職者が出ることで現場はさらに厳しさを増しています。その背景には、看護師に課される夜間オンコール対応という大きな精神的負担があることが指摘されています。緊急時の対応を一手に引き受けるその重圧は、長く続けるうちに心身の疲弊を招き、離職の原因にもなっています。

また、これから新たに入職を考える人材にとっても、このオンコール業務がハードルとなることで、採用活動にも影響を及ぼしています。

新たなシステムの導入

介護の現場を支える人手が減り続ける中、今こそ持続可能な体制づくりが急務となっています。そうした状況を打開すべく、当施設では2023年8月から夜間オンコール対応を外部委託する「ドクターメイト」を導入いたしました。ドクターメイトは、医療と介護の間に立ち、安心の医療サポートを提供するサービスです。主な特徴として、「24時間365日の医療相談対応」、そして「夜間オンコールの代行サービス」があります。「24時間365日の医療相談サービス」では、施設職員がいつでも医療職に相談できる体制が整っています。「夜間オンコール代行」では、これまで看護師が対応していた夜間の電話をドクターメイトが代行し、状況を伝えることで医療職から救急搬送や経過観察などのアド

バイスを貰います。また必要に応じて医師の判断を仰ぐことが可能です。

持続可能な介護現場を創るドクターメイト

導入後、現場には明確な変化が現れました。まず、看護師にとって夜間対応の負担が大幅に軽減され、離職を防ぐ効果が見られました。また、安心して働ける環境が整ったことで、看護師の求人への問い合わせも増加。これは採用活動においても大きな前進です。さらに、介護職員が「相談しやすい」と感じることで、現場からのオンコール件数も増え、より迅速な対応が可能となりました。

私たちは今後も、ドクターメイトのようなシステムを活用し持続可能な福祉現場の環境づくりを進めてまいります。単に一施設の問題解決にとどまらず、こうした取り組みが福祉業界全体の改革を促し、サービスの質の向上へとつながっていくことと信じています。より良い介護の未来を創るために、今できることから一歩ずつ。ドクターメイトをはじめとした外部システムの活用は、その第一歩です。



特集2

福祉現場の課題 ～職員を守るハラスメント対策の必要性～



すずき利彦社会保険労務士事務所
社会保険労務士 鈴木利彦

社会保険労務士として福祉施設に関わる中で感じることは介護・福祉の現場に立つ職員の「責任感の強さ」と「献身性」です。利用者一人ひとりと向き合い、家族との関係にも気を配りながら、長時間にわたって高い集中力で働く姿は、まさに福祉の矜持を体現しています。

しかし、そうした職員ほど、理不尽な扱いや過剰な期待、そしてパワハラやカスハラといった目に見えにくい暴力にさらされやすいという現実があります。「自分さえ我慢すれば」「相手は高齢者だから」「障害者だから」と感情を押し殺して働くうちに、心身がすり減り、やがて離職に至ってしまうことも少なくありません。

ハラスメント対策とは、こうした「真面目な職員」を守るための最も現実的かつ緊急の課題です。ただルールを整備するだけでなく、経営者が「守るべきは職員の尊厳である」と明言し、その姿勢を組織に浸透させることが第一歩となります。

ハラスメントの温床は、制度の不備以上に「職員同士が声を上げにくい空気」「上司が現場の声を汲み取れない構造」にあると感じます。だからこそ、職場全体で「報告・相談は弱さではなく、組織の強さを育てる行動だ」とする風土をつくる必要があります。

また、カスハラ対策においては、契約書への記載やポスター掲示といった「見える対応」も重要ですが、

利用者・家族との信頼関係を日常の中で丁寧に築いていく地道な姿勢が不可欠です。現場任せにせず、「組織全体で支える体制」が問われます。

ハラスメント対策とは、現場の責任感のある職員を守ること。そしてそれは、結果としてご利用者への安定したサービス提供につながります。現場で活躍する職員の努力に、組織がどれだけ応えているか、そこに真の「施設の質」が現れるのではないのでしょうか。

ハラスメントを防ぐための企業風土づくりは、一朝一夕では実現できません。まずは日常の中に「信頼」と「安心」を育む仕組みが必要です。たとえば、日々の声かけ、感謝の共有、職員同士の交流の機会を積極的に設けることも大事な施策です。さらに、管理職層が定期的に面談を行い、個々の職員の不安や疑問に耳を傾けることが、組織全体の風通しを良くする基盤になります。風土とはトップダウンで押し付けるものではなく、全員参加によって育てていく文化です。小さな実践を積み重ねることが、真に職員を守る職場風土の礎となります。



インタビュー 「介護×DISCO!」 介護士DJ 大滝亮輔さん(静岡)



広報委員会副委員長
特別養護老人ホーム 羽鳥の森
根城隼太

静岡市内の介護施設に勤務するひとりの介護職員に全国が注目をしている。介護DJ・GENこと大滝亮輔さん。介護の正職員として夜勤勤務などをこなす傍ら、私生活ではクラブイベントの主宰として全国各地でイベントを手掛ける。高齢者施設で行う「ロマンディスコ」、障害者施設で行う「ナナイロディスコ」など。ディスコティックなサウンドとミラーボールの光碟が回る中で、車いすの高齢者たちがリズムに合わせてペンライトを振っている。福祉の現場で展開されるエレクトロカルなイベントは各地の福祉施設から依頼が殺到し、今や半年先まで予約がいっぱいだと言う。介護業界が注目する時代の寵児、大滝亮輔さんに話を聞いた。(インタビュアー老協広報委員長 倉田聡)



インタビュアー（倉田聡）と大滝さん（写真右）

倉田「大滝さんは介護歴も17年と相当長いですね。ご趣味であるDJと介護が結びついた契機はなんですか？」

大滝「趣味で20代の頃からDJをしていたんです。その頃は仕事と趣味は別だと考えていたし、趣味の世界では「介護」の施設に勤めていることは言い出しにくかったですね。あまりにも世界が違いすぎて。でも30代になった頃に、イベントで車椅子ユーザーの方と知り合い、車椅子の方でもクラブイベントに来るんだ！と驚くと共に考え方の幅が広がりました。沢山いるDJの中で、自分が如何にして個性を確立するべきかと考え、自分自身を見つめ直した時に、自分の中には既に「介護」という個性があった事に気付いたんです。



「僕は関わる方すべてを幸せにしたい」

趣味の世界で、仕事の場で、「自分にしか出来ないこと」ってなんだろうと考えた結果、趣味（DJ）と仕事（介護）が重なって、福祉施設の中でイベントを行うことを始めました。クラブってお客様がクラブに出向きますが、クラブが老人ホームに出向いても「楽しい」んじゃないか。」

倉田「仕事って質とか効率ばかりが優先されますが、『何をしたら楽しいか』ってかなり大切なファクターですよね。良質の仕事をしたいのであれば、なおさらワクワクするような仕事を作り出すことはとても有意義だと思います。働く人間がワクワクしなければお客様をワクワクさせることは出来ませんよ。実際にイベント回数はどれくらいあるんですか？」

大滝「月に2、3回は行っています。この前は能登半島にも行きましたよ。ありがたい事に多くの施設から声を掛けて頂くので年内は予約が埋まっていますね。」

倉田「実際にご高齢者の反応はいかがですか？」

大滝「はじめは何が始まるんだろう？と。会場も暗くなっていますしね。でも音と映像が始まって、皆さんのペンライトも光って、だんだん皆さんがリズムに合わせて体も動き出して。これは楽しいことなんだ！とあとから分かってくる。最後には楽しかった！と感じて貰っています。」

倉田「そんなことが出来るんですね、魔法のようです」

大滝「参加することも、楽しむことも僕は強制したくないんです。僕の行うのはあくまでも楽しむための選



択肢のひとつです。」

倉田「それでも皆さんが楽しんでくれるんですね、どんなマジックなんでしょう？」

大滝「介護の世界でもお風呂に入って頂くまでに、いきなり本題に入らず本題までの会話の流れの重視するじゃないですか。だからDJの際もスタートしてから

いきなり皆さんが大好きな曲は流さず流れを大切にしている。小さな波からはじめて、波がだんだん大きくなる。クライマックス、そしてフィナーレ。音楽を流すだけで何でも盛り上がる訳じゃないので、どんなストーリーを用意するか毎回凄く考えますよ。利用者さんだけではなくスタッフも一緒になって楽しんで頂ける場にしたいと思っているし、そこにご家族や地域の方も参加することで社会参加ができる。共生社会が生まれますよね。ただ楽しいだけじゃない、それが経験とか思い出になって欲しいんです」

倉田「音楽は肌で感じるものなんですよ。肌で楽しいことが分かる。音楽って世界の共通言語ですよ」

大滝「DJって人を相手にするじゃないですか。福祉も同じです。若い頃は全く別物だと考えていましたが、もしかして同じ事だったんじゃないかと今では考えています。どちらも人に喜んでもらうことが目的なんですよね。DJって福祉だったんだ！笑」

倉田「喜んでもらいたいですよね」

大滝「喜んでもらうことが自分の幸せだと感じています」

倉田「大滝さんの取り組みは凄く進歩的だと思います。未来的、とも言えるかと思います。大滝さんから未来を担う若者たちにメッセージはありますか？」

大滝「自分のやっていることは介護業界に革命を起こそうとか、そんな大それたものではなくて、数ある選択肢のひとつを提示しているだけなんです。でも、そうですね、、、これから業界を作る方々には『状況は自分で変えることができる』と伝えたい、です」

倉田「ああ、その言葉には私も非常に共感します」

大滝「介護は自分次第なんです。良くしたければ良く

なる。自分の力です。僕はとにかく目の前の人に喜んでもらいたい、関わる人すべてを幸せにしたい。それができるかどうかは全て自分の力です。」

倉田「会社や人のせいにして嘆くばかりの方がいますが、自分で変えることができる部分は絶対ある。嘆く前に動くことが大切ですよね。大滝さんがこれだけ大きなイベントを手がけるようになったのも分かる気がします。多くの方が大滝さんに協力してくれて、支えている印象です。大滝さんの魅力が人を惹きつけるんですね」



大滝「僕は出会う方、ひとりひとりを大切にしたいと思っています。それでみんなが協力してくれるのだと思います」

倉田「最後に大滝さんのお気持ちをどうぞ」

大滝「外の世界の方からよく介護って大変でしょう、と言われるよね。でも僕は介護が好きでやってるし、介護のイメージが悪いとも思わない。介護の現場には楽しいと思える事をどんどん挑戦できるチャンスがあるんです。自分の力で仕事の可能性、ご利用者の可能性を広げる事ができます。一生懸命考えて、工夫して、全力で取り組める。やりがいのある素晴らしい仕事だと思っています。どんどん挑戦したいですね。どんどん挑戦して欲しいです」



大滝亮輔プロフィール
介護職員兼DJ。介護経験17年の介護福祉士。DJとしては、全国のクラブや野外フェスへの出演などで活躍中。
イベントの依頼は
Instagram (@gen1106) や
Facebookから受付中。



職員紹介

各施設の職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

特養 伊豆中央ケアセンター

(伊豆市)



- ① 長谷川 結 (介護職員)
- ② 好きなアニメがミュージカル化されることが決まった事
- ③ 舘ひろし (イケおじ最高!!)
- ④ 世界一周と貯金
- ⑤ やりがいと達成感を得られ、人間関係の良い職場にしていきたいです。
- ⑥ 高校生の時福祉授業を選択していました。実習でケアセンターに来た時に、利用者の笑顔が多く、ここの施設で働きたいと思いました。

特養 陽光園

(沼津市)



- ① 杉山 哲平 (介護職員)
- ② 誕生日を祝ってもらったこと
- ③ 大谷翔平
- ④ 貯金
- ⑤ どの職種でも協力し合える職場にしたい。
- ⑥ 利用者様と職員の雰囲気が明るく、良い感じがしたから。



特養 カリタス21

(静岡市葵区)



- ① 山中 脩平 (ケアワーカー)
- ② 誕生日に好きなバンド主催のフェスの開催が決まったこと
- ③ 角田裕毅選手 (レッドブル・レーシングF1)
- ④ 家族旅行、残りは貯金
- ⑤ 利用者様が入所前まで持っていた楽しみを施設内の生活からも感じてもらえるような施設
- ⑥ 施設見学の際にデイサービスの利用者様の声が入所の方のフロアまで聞こえていて雰囲気がいいなと思ったからです。

特養 開寿園

(藤枝市)



- ① 今井 穂夏 (介護員)
- ② 友達に誘われてディズニーに行きます。絶叫系が好きです。
- ③ 女優の出口夏希ちゃんが好きです。顔がタイプでかわいいなあとと思って。
- ④ 半分位お父さんにあげて、後は全部貯金です。うん、貯金です。
- ⑤ 入っただけで、良い雰囲気だなあと感じ取ってもらえるような施設がいいなと思います。
- ⑥ 見学に来た時、利用者さんや職員と接してのんびりして働きやすそうだなと思ったから。

特養 森町愛光園

(周智郡森町)



- ① 中村 柚輝 (介護職)
- ② 初めてパーマをかけて「似合っている」と言われたこと。
- ③ 西野カナ
- ④ 家を建てる。
- ⑤ ご利用者がのびのびと生活でき、ご利用者・職員ともに笑顔の絶えない施設にしていきたい。
- ⑥ 施設見学に行った際、職員の方から気持ちよく挨拶をしてもらい、雰囲気もとても良くここで働きたいと思ったこと。また家からも近いということもあり決めました。

特養 第二南風

(浜松市中央区)



- ① 一瀬 心那 (介護職)
- ② 自分の介護観に合った、実現できるような施設を見つけ、現在楽しんで働くことができていること。
- ③ FRUITS ZIPPER
- ④ 欲しいものを全部買って余りを貯金します!
- ⑤ 自分なりの良い介護を実践し、入居者・職員共にストレスフリーに生活できる職場にしたいです。
- ⑥ 介護学生として、色々な施設に実習に行かせてもらい、自分の持っている介護観を実現できる、実現したいと思うことができるような場所に出会うことができず、違う道へ進もうとした時に、南風と出会い「ここで働きたい」と強く思ったため。

どうぞよろしくお願ひします

委員会紹介

企画経営委員会の活動紹介

～生産性向上推進体制加算に関するアンケート調査結果について～



企画経営委員会副委員長
特別養護老人ホーム 紫雲の園
施設長 岡田 昌孝

私たち企画経営委員会のDX（デジタル）化の調査・研究チームでは、慢性的課題の人材不足・働き方改革への対応やICT導入をはじめとするDX化への推進等による業務の効率化とサービスの質の向上を目的とし、これからの介護現場におけるデジタル技術の活用について調査・研究を行っています。

令和7年4月23日に財務省が財政制度等審議会・財政制度分科会で配布した資料には、「今後の生産年齢人口の減少を踏まえれば、介護分野にばかり人材が集中するのは適切でないことから、処遇改善のみにより新たな人手を求めるのではなく、既存の人材を大切にしながら生産性の向上や職場環境整備等に取り組む事業者が利用者・職員に選ばれていくことが重要。」と明記されています。この記述は、財務省が新規の人材確保よりも既存の人材の離職防止を重視し、ICT機器を活用した人員配置の効率化や経営の協働化・大規模化によって、増大する介護ニーズへの対応を目指すべきという考えを示唆していると解釈できます。

しかしながら、現実には介護分野への人材集中どころか、令和5年度には前年度比2万8千人もの介護職員数が減少しており、さらに10年後には第二次ベビーブーム世代の職員が続々と定年を迎えます。今後、人材確保がますます困難になることは明白であり、介護現場における生産性向上は、もはや誰に言われるまで

もなく、喫緊の課題となっています。

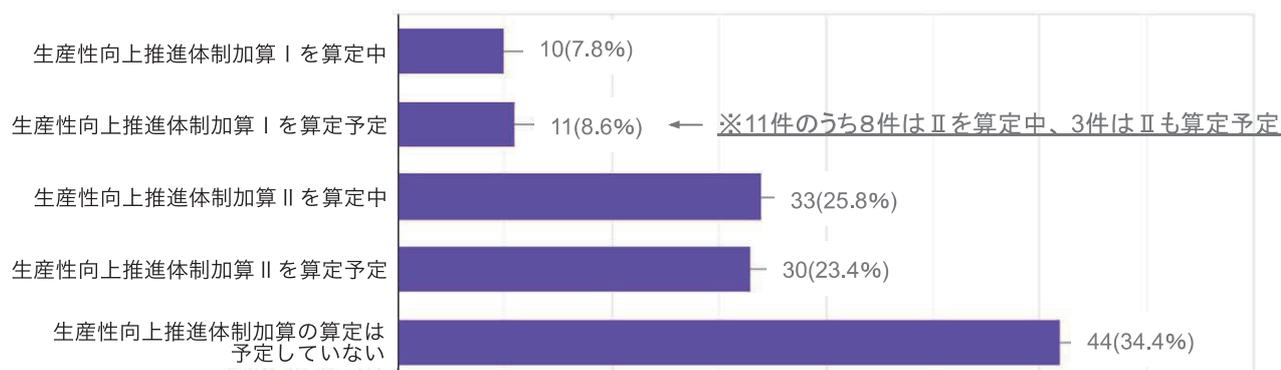
そのような状況下、昨年末に委員会活動の一環として実施した「生産性向上推進体制加算についてのアンケート」では、回答いただいた施設の約3分の1が加算の算定を予定していないという結果でした。加算Ⅱの単位数は月10単位と、費用対効果が高いとは言えないため、生産性向上には取り組むものの、加算算定は見送るという判断をする施設もあるでしょう。しかし、加算Ⅱの算定要件のうち、最も労力を必要とする「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会設置」は、3年間の猶予期間はあるものの義務化されています。このことから、国としては全ての施設が加算Ⅱまでは取得することを想定して加算を設計したと推察されます。その上で、加算Ⅰについては、要件のハードルは非常に高いものの、それ自体が生産性を高めるために必要な取り組みであると信じて、チャレンジしていく他ないと思います。

今後、ますます深刻化する労働人口の減少時代に備え、私たち介護事業者には、加算取得に向けた取り組みを通じて施設職員の生産性向上に対する意識を高め、業界全体の生産性を押し上げるという、重要な使命が課せられているのではないのでしょうか。

I 生産性向上推進体制加算について伺います

生産性向上推進体制加算の算定状況について伺います。該当する項目をチェックしてください(複数回答可)

145件の回答 ※このうちデイサービス4施設、軽費8施設、養護5施設は加算対象外(分母は128施設)



※ 生産性向上推進体制加算についてのアンケート調査報告書から抜粋

養護老人ホームの措置費に係る支弁額改定・ 軽費老人ホームの利用料改定等に関する要望

～静岡県・静岡市・浜松市・自民党介護議連への要望活動について～

養護老人ホームの老人保護措置費に係る支弁額の改定について（要望）

平素より養護老人ホームの活動推進に格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、養護老人ホームは、住環境や人的な環境等により現在の生活が難しく、経済的にも課題のある方など地域の高齢者の生活を懸命に支えています。市町村からの措置者数の減少や一般事務費等を長年改定していない市町村が多いことに加え、昨今の物価高騰により、非常に厳しい事業運営を強いられています。福祉医療機構の調査によると、赤字施設は3年連続で半数以上かつ収支差率も3年連続でマイナスとなっており、危機的な状況にあります。

つきましては、養護老人ホームが高齢者福祉の基盤を守るだけでなく、地域共生社会の推進の役割を果たしていくためにも、次の項目を実施いただきますようお願い申し上げます。

※本文一部省略

記

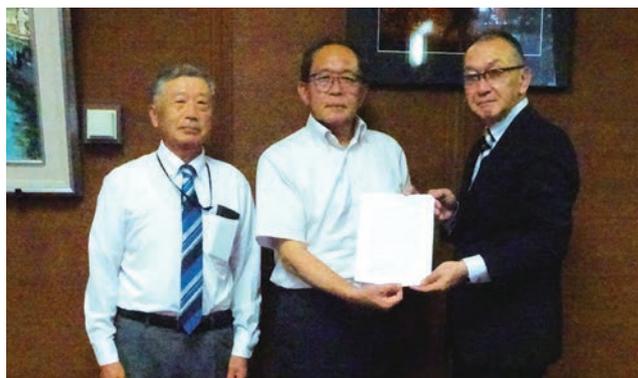
- 令和6年度介護報酬改定を踏まえた対応（未実施の場合）
 - ・ 処遇改善分として「事務費の合計×1.16%」による事務費の改定
 - ・ その他分として一般事務費や各種加算等の0.61%の一律の引上げ
 - ・ 基準費用額（居住費）日額60円引上げによる一般生活費（月額）1,824円の引上げ
- 地方自治体独自の改定（いわゆる過去分の改定、未実施の場合）
 - ・ 一般事務費および特別事務費の改定
 - ・ 一般生活費をはじめとした生活費の改定
- 令和6年度介護人材確保・職場環境改善等事業を踏まえた対応
 - ・ 「対象職員数（月平均）×54,000円」による加算総額（年額）の支給
- 従前の処遇改善（月額平均9,000円相当）への対応（未実施の場合）
- 消費税引上げ（8%及び10%）への対応（未実施の場合）

静岡県への要望



左から前田副会長、青山部長、種岡会長

自民党介護議連への要望



左から前田副会長、鈴木澄美県議（介護議連会長）、種岡会長

令和7年6月27日に静岡県への要望活動、6月25日に静岡市への要望活動、6月23日に浜松市への要望活動、6月27日に静岡県議会自民党介護議連への要望活動を行いました。

こちらから



なお、要望書全文を老施協ホームページのピックアップコーナーに掲載しています。→

軽費老人ホームの利用料等の改定等について（要望）

平素より軽費老人ホーム・ケアハウスの活動推進に格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、軽費老人ホーム・ケアハウスは、自立した生活に不安のある方をはじめ地域の高齢者の生活を懸命に支えています。入居者の減少や事務費補助金等を長年改定していない地方自治体が多いことに加え、昨今の物価高騰により、非常に厳しい事業運営を強いられています。福祉医療機構の調査によると、一般型ケアハウスにおいて赤字施設は2年連続で半数以上かつ収支差率も2年連続でマイナスとなっており、危機的な状況にあります。

つきましては、軽費老人ホーム・ケアハウスが高齢者福祉の基盤を守るだけでなく、地域共生社会の推進の役割を果たしていくためにも、次の項目を実施いただきますようお願い申し上げます。

※本文一部省略

記

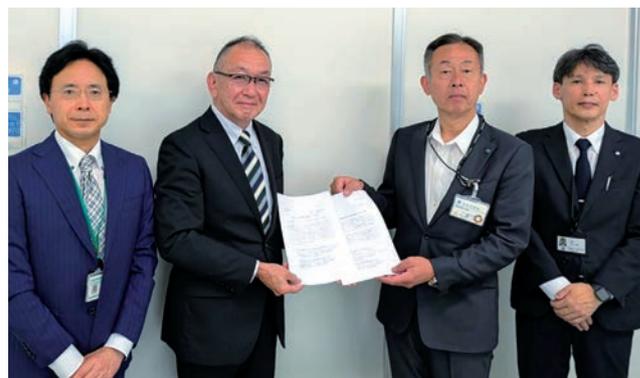
- 令和6年度介護報酬改定を踏まえた対応の実施（未実施の場合）
 - ・ 処遇改善分として「サービス提供に要する費用の合計×1.16%」による事務費の改定
 - ・ その他分としてサービス提供に要する基本額や各種加算等の0.61%の一律の引上げ
- 地方自治体独自の改定の実施（いわゆる過去分の改定、未実施の場合）
 - ・ サービス提供に要する基本額や各種加算等の改定
 - ・ 生活費の改定
- 令和6年度介護人材確保・職場環境改善等事業を踏まえた対応
 - ・ 「対象職員数（月平均）×54,000円」による加算総額（年額）の支給
- 従前の処遇改善（月額平均9,000円相当）への対応（未実施の場合）
- 消費税引上げ（8%及び10%）への対応（未実施の場合）
- 養護老人ホームの措置費の改定等に向けた市町村への支援（都道府県の場合）
 - ・ 市町村措置事務担当者説明会の開催や指定都市と中核市を含めた調整等

静岡市への要望



左から千葉静岡市老人福祉施設連絡協議会会長、前田副会長、山本局長、種岡会長

浜松市への要望



左から増田副会長、種岡会長、小松部長、平川浜松市社会福祉協議会老人部会幹事

支部紹介(東部支部)

社会福祉法人湖聖会 特別養護老人ホーム「月のあかり」の 地域に根差した取り組み



広報委員東部地区担当
養護老人ホーム熱海伊豆海の郷
浅野 真史

今号の支部紹介は、東部地区にある社会福祉法人湖聖会が運営する、特別養護老人ホーム「月のあかり」になります。特別養護老人ホーム「月のあかり」は、富士市大淵に位置し、理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の基、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスの介護サービスを展開する他、さまざまな社会貢献活動を行っています。今回は、単なる介護施設の場にとどまらず、富士市大淵を中心とした地域との関わりとして、地域住民や子供たちが気軽に訪れ、世代を超えた交流が生まれる場所としての取り組みについてご紹介したいと思います。



特別養護老人ホーム「月のあかり」

地域に根差した取り組みの一環として、「月のあかり」では、第三者委員の協力のもと不登校または障害を持つ子供たちの居場所づくりを目的としたレクリエーション活動を実施していますが、近年ではそれだけでなく、小学生の職場体験の機会も設けることで、さらに幅広い世代が関わる場となっています。

風鈴に絵を描く・飾りつけのレクリエーション

この取り組みでは、子供たちが風鈴に絵を描いたり、飾りつけをしたりすることで、創造力を発揮しながら楽しい時間を過ごせるよう工夫されています。風鈴は月のあかりの象徴の一つであり、日本の夏の風物詩。その涼やかな音色は心を落ち着かせる効果があり、子供たちは自分の思いを込めて風鈴を装飾することで、自己表現の場を持つことができます。また、この風鈴の絵付け教室には高校生が講師として参加し、子供たちや高齢者との交流の橋渡し役を務めています。高校生が指導を行うことで、小学生たちは年上の存在から学び、高齢者は若い世代との触れ合いを楽しむことができます。この活動は単なるレクリエーションではなく、世代を超えた相互理解を深める貴重な機会となっているのです。



地域の世代をつなぐきっかけの場

「月のあかり」では、施設の入居者だけでなく、富士市内の地域住民やボランティアの方々も積極的に活動に参加しています。

風鈴作りの時には、小学生から高校生、そして高齢者までが一緒に作業を行い、温かいコミュニケーションが生まれます。特に、不登校



の子供たちにとっては、社会とのつながりを感じられる大切な時間となります。

加えて、小学生の職場体験を通じて、子供たちは高齢者施設の役割や福祉の重要性を学びます。職場体験では、施設の職員と共に簡単な業務を体験し、高齢者と直接関わる時間を持つことで、福祉への理解を深める機会となっています。こうした活動を通じて、「月のあかり」は地域全体で支え合う場としての役割を果たしているのです。

施設の理念と今後の展望

「月のあかり」は、単なる介護施設ではなく、地域の人々が集い、支え合う場としての機能を担っています。



す。特に、幼少期から高校生までの幅広い世代が関わることができる点が大きな特徴となっており、地域全体の結びつきを強化することにつながっています。

今後も、「月のあかり」では地域住民や子供たちが気軽に参加できるイベントを企画し、誰もが安心して過ごせる環境を提供していく予定です。風鈴作りや職場体験だけでなく、さらに多様な世代が楽しめる活動を通じて、地域とのつながりを深める場として発展していくことを目指しています。

こうした取り組みを通じて、「月のあかり」は地域に根差した福祉施設として、誰もが心地よく過ごせる場所を提供し続けていくでしょう。



会員施設の紹介

ケアハウスやまぼうし

【一言キャッチフレーズ】

「やさしさと
まごころ込めて
ぼんやりやすらぐ
うれしい毎日を
しあわせと共に」

【施設概要】

- ・施設名：ケアハウスやまぼうし
- ・施設長名：神戸 駿
- ・運営法人：社会福祉法人 博友会
- ・理念：『長生きして良かったのお手伝い』
- ・開所日：平成27年4月1日
- ・所在地：沼津市足高251-7
- ・提供サービス：軽費老人ホーム（ケアハウス）
- ・定員数：60名
- ・施設HP：<http://www.hakuyu-kai.or.jp/yamaboushi/>

「長生きして良かった」のお手伝い



施設HPはこちらから ⇒



YAMABOUSHI_CAREHOUSE

← Instagram



特別養護老人ホーム 海山荘

【一言キャッチフレーズ】

○駿河湾と富士山を一望でき、
笑顔とありがとうのあふれる施設をめざします。

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム 海山荘
- ・施設長名：小野田 茂喜
- ・運営法人：社会福祉法人 正廉会
- ・理念：『和み』『創意工夫』『個人の尊重』『ありがとうの心』
- ・開所日：平成17年12月1日
- ・所在地：牧之原市片浜1013-1
- ・提供サービス：介護老人福祉施設／短期入所生活介護／通所介護／居宅介護支援事業所／訪問介護
- ・定員数：特養60名／短期入所10名／通所介護30名
- ・施設HP：<https://www.kaizansou.com/>



※施設HPはこちらから ⇒



特別養護老人ホーム 豊田ゆうあいの里

【一言キャッチフレーズ】

『私たちは、信頼のケアと安心の暮らしを職員全員で目指しています』
施設名にも入っている「ゆうあい」は、
ゆ・・・夢ある豊かでゆとりある人生を、ゆとりの空間で
う・・・敬い、敬われ、潤いのある仲間と
あ・・・明るく愛情に満ちた、あたたかい生活を
い・・・命の尊さと慈しみの心で務めます

【施設概要】

- ・施設名：特別養護老人ホーム 豊田ゆうあいの里
- ・施設長名：鈴木 康成
- ・運営法人：社会福祉法人 遠州中央福祉会
- ・開所日：平成17年10月7日
- ・所在地：磐田市下万能700
- ・提供サービス：特養／ショート／デイ／居宅介護支援
- ・定員数：特養80名／ショート20名／デイ35名
- ・施設HP：<https://www.enchu-fukushikai.or.jp/>



施設HPはこちらから ⇒



TOYODAYUAI

← Instagram



感謝状受賞

当会の石川相談役が静岡県社会福祉審議会の委員を長年お務めになられたことへの感謝状が、県から贈呈されることになり、令和7年3月21日の当会の定例総会において、静岡県健康福祉部の勝岡福祉長寿局長から贈呈されました。今回の受賞は当会にとりまして大変喜ばしいことであり、心からお祝い申し上げます。



石川相談役

令和7年度老施協活動報告（令和7年4月1日～令和7年6月30日）

【老施協・会務運営】

- ★4月8日 第1回相談役・正副会長会議
- ★5月9日 監事監査
- ★5月9日 第1回理事会
理事の補欠の選任、令和6年度事業報告案及び一般会計収支決算案等
- ★5月15日 第2回相談役・正副会長会議
- ★5月27日 第1回総会
理事の補欠の選任、令和6年度事業報告案及び一般会計収支決算案等
- ★6月6日 第3回相談役・正副会長会議
- ★6月6日 第1回事業推進検討会議
- ★6月23日 浜松市への要望活動
- ★6月25日 静岡市への要望活動
- ★6月27日 静岡県・自民党介護議連への要望活動

【企画経営委員会】

- ★4月10日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画(役割分担、アンケートの実施等)

【広報委員会】

- ★4月16日 第1回委員会
『しず老施協』第73号の企画、老施協ホームページ

【研修委員会】

- ★4月18日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画（施設長研修、接遇マナー研修等）
- ★5月27日 施設長研修の開催
- ★6月16日 第2回委員会
接遇マナー研修、人材育成研修等の計画

【次世代委員会】

- ★4月17日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画（学生セミナー、介護の日ポスター等）
- ★5月22日 第2回委員会
学生セミナー、介護の日ポスター等

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

- ★4月11日 第1回委員会
第14回研究大会の開催(記念講演、研究発表、介護機器展等)
- ★5月13日 第2回委員会
記念講演、研究発表、会場審査員採点票、大会案内チラシ等
- ★6月18日 第3回委員会
発表申込状況、大会当日のタイムスケジュール、介護機器展等

【養護委員会】

- ★4月23日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画
- ★6月9日 第1回養護委員会総会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画、県への要望等

【特養委員会】

- ★4月22日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画等
- ★6月24日 第2回委員会
令和7年度待機・入所状況調査の実施等

【軽費委員会】

- ★5月19日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画等

【地域ケア委員会】

- ★5月21日 第1回委員会
令和6年度活動実績、令和7年度活動計画等

編集後記

私の通った中学校の隣にはお茶工場がありました。時季になるとお茶の葉を蒸す青臭みがとても苦手だったのに、いつの間にかその香りがとても心地よく、さわやかな香りとまるやかな味を楽しむようになりました。

現在勤務する施設は、すぐ目の前にお茶畑があります。八十八夜には農家さんのご厚意で、毎年新芽を摘ませていただき、天ぷらとして食する行事が恒例と

なっています。

年に1度だけの贅沢な行事食が40年間も続いているのは、ちょっとした自慢です。お茶と富士山に囲まれ、季節を感じられる生活ができるありがたさを、日々感じています。

広報委員会は2年目となりますが、今期もよろしくお願ひします。

(遠藤美佐恵)

特別養護老人ホーム **おおしま**

法人名 社会福祉法人 陽翔会
 開設日 平成18年8月1日(入会年月日 令和7年4月1日)
 施設長 鈴木 君代
 所在地 浜松市中央区大島町891
 入所定員 80人 デイサービス35人 短期20人

特別養護老人ホーム **白萩荘**

法人名 社会福祉法人 慈悲庵
 開設日 昭和62年9月1日(入会年月日 令和7年4月1日)
 施設長 土屋 貴之
 所在地 浜松市中央区鴨江3-6-12
 入所定員 50人 デイサービス35人 短期10人

養護老人ホーム **九重荘**

法人名 社会福祉法人 慈悲庵
 開設日 昭和45年4月1日(入会年月日 令和7年4月1日)
 施設長 沢田 好孝
 所在地 浜松市浜名区都田町17-4
 入所定員 50人

特別養護老人ホーム **伊豆の瞳**

法人名 社会福祉法人 珀寿会
 開設日 平成26年10月21日(入会年月日 令和7年5月1日)
 施設長 森田 純代
 所在地 伊東市吉田821-19
 入所定員 160人 デイサービス35人 短期20人



第14回 静岡県高齢者福祉研究大会案内

未来へつなぐ ふじのくにの介護力 ～今を彩る CARE INNOVATION～

- 日時 令和7年9月3日(水) 9:50～16:30
- 会場 アクトシティ浜松
- 内容

記念講演 10:20～11:20 中ホール

『若年性認知症の母と生きる』

フリーアナウンサー 岩佐 まり 氏

大阪府出身。
 55歳の若さで認知症を患った母親を20年に渡って介護している。
 ブログ、書籍出版以外にも、テレビ番組出演多数。



〈研究発表〉 12:20～16:20 55題 〈介護機器展〉 11:00～16:30 34社出展予定

- 主催 静岡県老人福祉施設協議会
- 後援 静岡県、静岡県社会福祉協議会、静岡県介護福祉士会、静岡県社会福祉士会、静岡県介護支援専門員協会、静岡県地域包括・在宅支援センター協議会

